

独立行政法人国立病院機構
沖縄病院 広報誌

発行日

平成23年1月1日

第23号

発行所

沖縄県宜野湾市我如古3丁目20-14

編集発行 広報委員会



基本理念

患者さまの立場を尊重し高度で良質の医療を提供します。



恩納海浜公園ナッピービーチ 万座毛とリゾートホテルの間の湾になった中央に位置し、遊泳客の大半が地元の人という穴場的なビーチです。設備も充実しており、安心して海水浴が楽しめます。当院から北北西に約35km、約45分。海もとても綺麗で、サンセットも絶景です。入口では、可愛いシーサーが招き猫のように、左手をあげて歓迎してくれています。

運営方針

- ①政策医療を中心に、質の高い適切な医療サービスの提供
- ②患者さまの視点に立った、暖かく思いやりのある接遇
- ③健全な経営基盤の確立
- ④安心して療養に専念できる快適な環境
- ⑤臨床研究の活性化と臨床教育・研修機能の充実

目次

- 「絆(きずな)」を大切にする
職場と社会を!
～南米チリ鉱山の落盤事故の考察～ …… 2
- フルーツ演奏と朗読会で得た
心の癒し …… 3
- 沖縄病院 特別コンサート …… 4
- 売店・食堂のご案内 …… 6
- アクセスマップ …… 7
- 医事統計・編集後記 …… 8



表紙の花: ブーゲンビリア: オシロイバナ科ブーゲンビリア属に属する熱帯性の低木、和名はイカダカズラ。色づいた花びらに見える部分は花を取り巻く葉(包葉)である。

(当院第4駐車場にて撮影)

ロゴマークの意味



南国沖縄のイメージを表現する為に、原色(はっきりとした色)を基調とし、ベースは沖縄 okinawa の“O(オー)”を表しています。肉太い赤で太陽を表現。中は波をブルーで表し、全体として健康を象徴する人間の笑顔をかたち取っています。



「絆(きずな)」を大切にできる職場と社会を！ ～南米チリ鉱山の落盤事故の考察～

院長 石川 清司

「テーゲー（成りゆきまかせ）」の精神で沖縄を飛び出し、南米へ渡って一ヶ月。鉱山の落盤事故でウチナーンチュ（沖縄県人）のニーサー（若者）が、地下深く、暗黒の世界を体験する羽目になった。青天の霹靂。真っ暗な、閉ざされた社会。頭の中は真っ白。過去の想い出が走馬燈のように駆けめぐると。とっさに出た一言。

”オッカー（お母さん）”。

母親のお腹の中にいた頃は、実に幸せな日々であった。酸素も栄養も十分に与えられた。一人の世界は平和そのもので、孤独感は全くなかった。母親との”へその緒”の「絆」は確かなものがあった。

狭い子宮の中で、生命の危機にさらされたことが一度だけあった。親戚の知識人を自慢する叔父が、最近の医学の遺伝子診断なるものについて母親に入れ知恵した。優秀な遺伝子など持ち合わせていないが、いくつかの欠陥を自覚していた。この危機は、なんとか未熟な大脳を横に振って乗り切ったが、知識人を気取る叔父は、母親に「人生…とは」と悲観論を説いていた。

仏様は「生老病死」と四苦を説き、キリストは鉄槌をもって十字架の上に釘付けにされている。日本では、先人が「重荷を背負って、遠き道を行くがごとし」と例えているとの事。広い、明るい世界にあこがれていた矢先、例えようのない不安にかられた。「天国と地獄」の話まで聞こえてきた。「もしかして今・現在が天国で、これから生まれ出ようとしている世界が地獄では・・・」等々と考えがまとまらない。誕生の日がやってきた。悩んでいる間に、予定日が2週間も延び、帝王切開となった。

初対面の両親には愛嬌をふりまいてと考えていたのが、地獄かもしれないという恐怖感から大声で泣きわめ

いてしまった。私の気持ちを察せず、両親は「元気な泣き声だと」褒め讃えた。

”友情”の「絆」が味方し、公務員になった。しかし、そこには「主任」「班長」「係長」「補佐」「課長」「部長」等と先の見えない世界があった。惰性での、その日暮らし。昼食の弁当箱の包み紙の新聞の求人欄に、チリ鉱山の広告があった。「現在の給与の5倍を保証する。経験者優遇」と。

「なんくる・・・ないさ（おのずと道は開ける）」と応募したのが事の始まり。南米の同僚は、素人の私にも実に親切であった。そこには、昔の沖縄の社会にあった”隣人”の「絆」が存在していた。

就職1ヶ月目の落盤。同じ暗闇でも、母親の子宮の中では一人であったが、孤独ではなかった。今回は30数名。大勢の中での孤独感。もしかして、ここが「地獄」では。弱肉強食。自然淘汰。優性遺伝の法則のみが残るのでは…。しかし、隊長は冷静に振る舞った。”生きる”ための「絆」、そして「縁」を説いた。秩序は保たれた。人事は尽くされた。そして隊長はつぶやいた。「なんくる・・・ないさ」と。

絶句。思わず後ずさり、石柱の陰に身を潜めた。俺の口からは決して出ない、この場面での「なんくる」。俺は、単なる沖縄のニーサー。もしかすると、隊長は南米チリへ移住した本物のウチナー2世では・・・。

救出作業は成功。真っ白な大脳皮質も活動を開始。「テーゲー」と「なんくる」の間には、天と地ほどの差があった。さてよ。またしても南米チリからの求人広告。「現在の収入の10倍を保証する。初心者大歓迎」とある。

～フルーツ演奏と朗読会で得た心の癒し～

緩和ケア病棟師長 比嘉 千佳子



毎日、照りつける夏の日差しに、心も身体も夏バテになり涼しさを求めている時、病院でコンサートを開きたいというボランティアの申し出がありました。この、ボランティアを申し込んできた方は島袋成香さんで、緩和ケア病棟で定期的にフルーツ演奏をして頂いている方です。

いつもは、病棟の廊下での演奏会ですが、今回は外来ロビーでのコンサートとし、島袋さんの他に2



名のフルーツ演奏者と、朗読の方が参加し、本格的な催しになりました。島袋さんも、「規模が大きくなり、ちゃんと演奏できるか心配です」と話されていましたが、コンサート当日は客席全席が埋まるほど患者さんとその家族で、ロビーが溢れていました。

コンサートは、クラシックから始まり、詩の朗読と

バックから流れるフルーツの調べが、大変心地よく感じられました。聞き入っている患者さんや家族の表情も穏やかで、病院の中のコンサートではなく、まるで大ホールで行われている演奏会のようなものでした。そして、その時間帯だけは、本当に涼しい風が病院の中を通りぬけているようでした。

私達、医療従事者は患者さんの身体と心の治療を常に考えながら向き合っていますが、時に患者の身体を中心に捉える傾向があり、患者の精神的な苦痛を緩和する為には、何が大切であるかを、このコンサートを通して考えさせられました。

これからは、私達が患者さんへフルーツの音色のような、優しく思いやりのある対応ができるよう、全職員で取り組んでいきたいと思います。

大変すばらしいコンサートをありがとうございました。島袋さんとその素敵な仲間の方々へこの場をお借りして、お礼を述べさせていただきます。



コンサート当日のプログラム

中材・手術室より ～認定資格が取れました～

・第2種滅菌技士 認定2名：H22年1月



副看護師長
稲福 由美子

看護師
呉屋 真紀

・消化器内視鏡技師認定3名：H22年4月



看護師
平良 恵

看護師
澤岨 明奈

看護師
末吉 温子

中材業務は、主として、滅菌された安全な物品の提供を行うことです。現場に供給される滅菌器材は

安心して患者様に使用されていますが、滅菌物が安心して使われている蔭では、目立たぬ場所で常に厳しいリスク管理のもとに滅菌業務が遂行されています。

長年、滅菌供給業務では、何ら特別な資格を持たずに現場での経験によって滅菌技術を修得した職員であることが殆どで、資格のないまま努力を重ねてきているのが現状でした。

今回、資格取得する事により、リスク管理が向上し患者様の安全性が大きく前進し、より安全な滅菌物の提供で看護の質の向上に繋がると考えています。

また近年の内視鏡検査においては、特殊な技術が用いられている中で、医師のサポートにも高いスキルが要求されています。より安全で安心できる検査介入を目指し3名のスタッフが資格に挑戦し取得できました。検査においては熟練した看護師が要求され、知識・技術も更に向上し自信を持って介入でき安全と安心の検査に繋がっていると考えています。

これからもスタッフ一同患者様からのご期待に応えられますよう邁進していきたいと考えています。どうぞよろしくお願ひします。

中材・手術室看護師長 澤 田鶴子

沖縄病院 特別コンサート

～ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブルによるボランティアコンサート～

【開催経緯】

それは、5月26日午後の、突然の一本の電話から始まりました。

「そちらの病院でボランティアコンサートをやりたいんだが、やらせていただけませんか？」との内容です。話が全く見えないので戸惑ったのですが、とにかく先方が話に伺いたいとのことで、5月31日に沖縄担当の準備スタッフが来院して打合せを行いました。

何うと、去年は県立南部医療センターでホスピタルコンサートを行ったが、今年は諸々の都合で当院に白羽の矢が立ったということで、むしろ、今後毎年いろいろの病院を訪ねて回りたいとの意向でした。

先方の希望をもとに院長の了承を得て、7月10日(土)の開催日程が決まり、6月8日にはニューヨークから来日した指揮者高原守氏が来院して打合せ。高原氏はとにかくエネルギッシュで気さくな人柄で、演奏会場候補としてデイケア棟のホールを見てもらったあと、やはり外来のホールも見たいとのことで、外来ホールを見た途端、「ここがいい、ここでやりましょう。通りすがりの人にも聞いてもらいたいです。」「このホールでいいんですか?」「こういうところがいいですよ。ここでやりましょう。」という経緯で、トントン拍子に話が決まりました。



【ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブルについて】

ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブルは旧ニューヨーク・メトロポリタン室内楽団として1979年に発足し、その後まもなく現在の名称に改められ、30年以上の歴史を持つ楽団です。

団員は、メトロポリタン・オペラ・オーケストラ

のメンバーをはじめとした、ニューヨークを中心に第一線で活躍している演奏家で構成されています。音楽監督兼常任指揮者の高原守氏は岡山県出身でバーンスタインにも師事し、現在ニューヨークを本拠地として音楽活動を続けており、毎年のように来日コンサートも行っています。

【開催当日】

12:20に楽団員が到着。バスから190cm級の若いガイジンさんがゾロゾロ降りてきて、「本物だー!!」と感じ、弦楽だけと置いていたら、管楽器も揃って、ほとんどオーケストラの様相です。

そのまま公開リハーサルに入り、ぼつぼつと客席も埋まっていき、特に院内保育園から多数の園児が手押しのカゴ車に乗せられて見物に登場した時には、メンバーからかわいいと歓声があがり、退場の際には大拍手で、スタッフの気さくな雰囲気が伝わってきました。

14:20から開演し、15:00までの予定が、熱演で15:40頃まで続き(高原指揮者が乗ってしまって止まらなくなった?)、最後には200人を超える聴衆でホールは満員になりました。

演奏後、ストレッチャーに寝たままの筋ジス患者から指揮者へ花束が贈られ、もう一人の筋ジス患者が不自由な発声で御礼の言葉を読み上げ、院長からの御礼の品が楽団員一人一人に手渡されました。

入院患者とご家族の皆様、ボランティアの職員も皆、演奏に酔いしれ、至福の時間を共有できた午後でした。千載一遇の機会を設けて頂いたことを、高原氏に感謝申し上げましたが、また、気まぐれな幸運が当院に白羽の矢を立ててくれることを願っています。





【 概 要 】

- ◆日 時：平成 22 年 7 月 10 日(土)
12:30 ~ 14:20 公開リハーサル
14:20 ~ 15:40 演奏会
(予定は 14:20 ~ 15:00)
- ◆場 所：独立行政法人国立病院機構沖縄病院
1 階外来ホール
- ◆演奏者：ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル(音楽監督兼常任指揮者
高原 守)
- ◆演奏曲目：①ベートーヴェン「交響曲第 6 番
田園より」、②チャイコフスキー「白
鳥の湖よりナポリの踊り」、③パッ
ヘルベル「カノン」、④グノー「アベ
マリア」、⑤ドボルジャーク「チェコ
組曲よりポルカ」、⑥ビゼー「歌劇
カルメン組曲より」
- ◆後 援：沖縄セルラー電話、アメリカンホ
ム保険会社
- ◆参加者：入院・外来患者、患者家族、見舞客、
職員ボランティア等 200 人以上

- ◆新聞記事：琉球新報 7 月 18 日(日)掲載
- ◆テレビ放映：JNN ニュース(RBC 琉球放送 7 月 11
日(日) 11:30 ~ 11:40)にて放映



コンサートのチラシ

▼コンサートの新聞記事

王宮 王求 森斤 幸反 2010年(平成22年) 7月18日 日曜日

クラシック
病院に響く
「ニュー
ヨーク・シン
フォニック・
アンサンブル
」(宮野浩二)
を
中心に活躍する楽
隊

院長で特別コンサートを開いた山本良。クラシックの迫力ある演奏に、訪れた人は目を凝らして聞き入っていた。

NYSOは毎年、各地を訪れてボランティアコンサートを実施。今回は同病院での演奏を申し出た。

外来ホールをコンサート会場に、NYSOの音楽監督兼常任指揮者の高屋守さんの下、総勢約10人が「カノン」や「アベマリア」などの曲を披露した。

同病院管理課の田中祐治氏は「患者や家族の方にも楽しんでほしい。ボランティアの力に感謝している」と話した。



売店・食堂のご案内

～営業時間～

- ◆売店 ・月曜日から金曜日まで
午前8時30分開店、
午後6時閉店
- ・土日、祝祭日
午前11時30分開店、
午後4時30分閉店

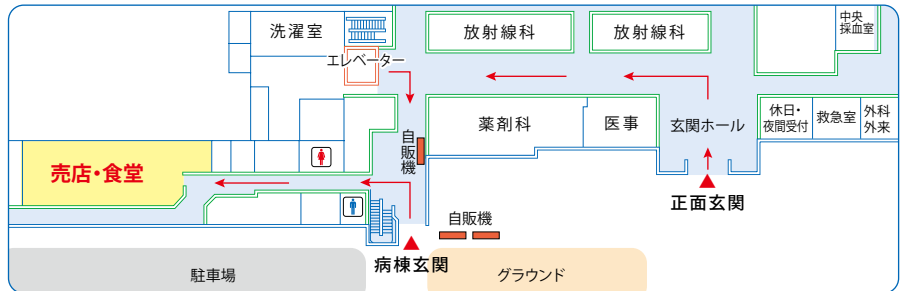
- ◆食堂 平日のみ営業、
午前8時30分開店、
午後2時30分まで

※ 尚、食堂は午後2時30分以降喫茶室としてご利用頂けます。御家族との面会、お友達がお見舞いにいらした時などにもご利用下さい。



売店では、入院生活に必要な日用品、文具、雑誌、お菓子、飲物。お弁当等取り扱っています。どうぞお気軽にお越し下さい。

店長 宮里 和美



「ヨスジフエダイ」水納島にて撮影。(当院から北北西へ約80km。)

アクセスマップ



NHO 沖縄病院

〒901-2214 沖縄県宜野湾市我如古3丁目20-14
 TEL 098-898-2121 FAX 098-897-9838
 URL <http://www.okinawa-hosp.jp/>

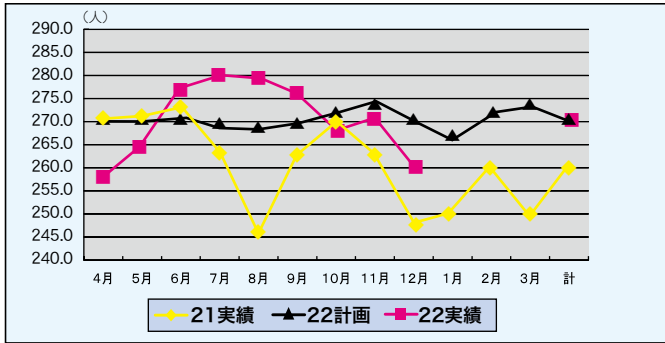
バス系統番号

- 琉球バス 27 88 90 227 288 290
- 沖縄バス 27 52 61 80
- 那覇バス 25



医事統計

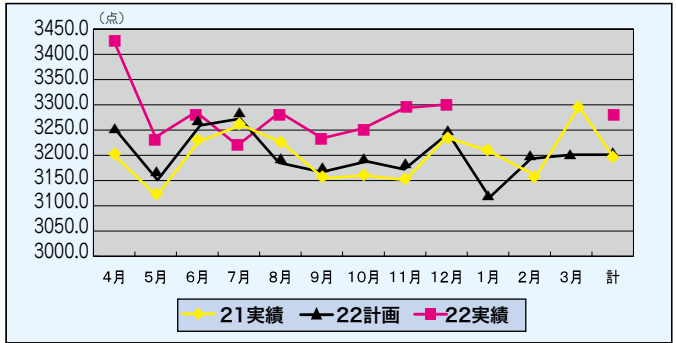
一日平均患者数(入院)



年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月
21実績	271.2	271.2	273.9	262.5	246.1	263.7
22計画	272.4	271.4	271.7	269.4	268.6	269.0
22実績	259.0	266.6	277.3	280.1	279.2	276.7

年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
21実績	270.4	263.1	248.8	250.3	260.5	250.1	260.9
22計画	272.4	273.7	270.5	266.6	272.5	274.1	271.0
22実績	267.4	271.4	259.9				270.8

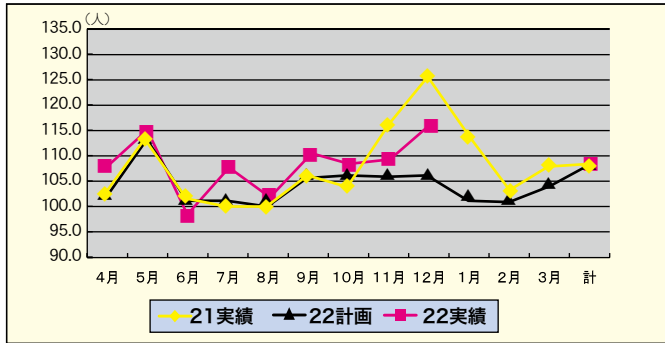
一人一日あたり診療点数(入院)



年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月
21実績	3,217.3	3,133.2	3,242.1	3,278.3	3,238.0	3,164.3
22計画	3,262.2	3,185.7	3,286.0	3,296.2	3,221.6	3,179.9
22実績	3,436.5	3,246.3	3,286.7	3,239.9	3,284.1	3,238.1

年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
21実績	3,172.8	3,164.3	3,250.6	3,222.8	3,175.8	3,332.8	3,215.5
22計画	3,211.4	3,189.6	3,262.0	3,137.0	3,234.0	3,234.7	3,225.0
22実績	3,254.5	3,293.0	3,299.9				3,285.2

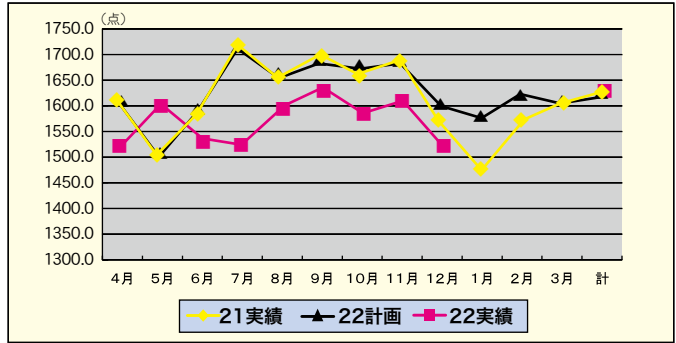
一日平均患者数(外来)



年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月
21実績	102.6	114.0	101.0	100.8	100.0	106.8
22計画	102.6	114.0	101.2	101.1	101.1	106.2
22実績	108.3	115.2	98.8	108.3	101.7	111.2

年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
21実績	104.5	116.3	125.9	114.3	104.7	107.6	107.9
22計画	104.4	106.0	106.8	100.6	102.2	104.5	104.0
22実績	107.5	109.1	115.9				108.1

一人一日あたり診療点数(外来)



年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月
21実績	1,602.9	1,506.9	1,588.1	1,720.1	1,658.4	1,679.8
22計画	1,609.2	1,513.2	1,596.3	1,726.5	1,666.8	1,687.0
22実績	1,539.2	1,605.7	1,542.4	1,536.6	1,616.2	1,647.2

年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
21実績	1,661.6	1,687.9	1,576.2	1,475.4	1,585.7	1,613.2	1,613.2
22計画	1,671.8	1,685.6	1,619.0	1,577.7	1,634.3	1,633.7	1,635.8
22実績	1,595.1	1,607.1	1,522.1				1,578.7

編集後記

日本にいるクマノミはハマクマノミ、クマノミ、カクレクマノミ、ハナビラクマノミ、セジロクマノミ、トウアカクマノミの6種類です。沖縄では、6種類全てのクマノミを見ることが出来ます。

クマノミの見分け方は、白い横じまの数で1本がハマクマノミ、2本がクマノミ、3本がカクレクマノミです。つまり、「一富士二鷹三茄子」ならぬ「一ハマ、ニクマ、三カクレ」となります。

写真は、クマノミの中でも最も人気の高い、体に三本の横じまがある「カクレクマノミ」です。

編集委員会では職員の皆様から記事を募集しています。今回もたくさんの方の記事、写真の投稿有難うございました。院内行事、研究発表、旅行記、表彰等、何か良い記事がありましたら、お気軽に近くの編集委員へご連絡下さい。



クイズの答え「しまだこ」

恩納村(万座毛付近)で撮影(当院から約40km)

漁師さんも大喜びの立派な(大きな)しまだこが、身を守るために、岩と同じ色に体の色を変えて隠れています。



編集委員

久場睦夫、江口珠美、浦本邦弘、宮里征武、岩村正史、安里栄子、島田明子、吉丸健一、新里 満、田中祐治、岩辻好夫、金城富樹